

No. 1103

火の用心

今年に入って火災発生件数は激増、それにつれて死傷の数も増えています。

「2月28日午前10時30分頃帰宅する園児をのせた通園バスと、ガソリンを満載したタンクローリーが正面衝突、流出したガソリンに引火して火災が発生」春の火災予防運動の一環として東京・野方消防署は消防演習を行いました。

「砂袋でガソリンの拡散を防止した直後、火はさらに隣接する雑居ビルに引火し延焼中」

最近では避難路もなく、防火施設の不備な雑居ビルでの火災で死傷者がめだつて増えています。消防署員100人、ポンプ車など12台を動員した大がかりな訓練は無事救出に成功したものの、本番では、はたしてうまく行くでしょうか。春は火災のシーズン、火の元には充分気をつけたいものです。

うり づら
瓜 連 の 里

北 帰 行

天上の乙女が白鳥の姿をかりて舞い降り、地上の男とむすばれその妻となるが、やがてまた白鳥になって飛び去る。……
優美な姿で世界的民話のモチーフとなる白鳥。瓜連の里は白鳥の里である。

茨城県水戸市郊外にある瓜連町。里に梅の便りが聞れる頃、白鳥たちの“北帰行”がはじまる。3月に入ってすぐ、可憐な旅人たちは故郷のシベリアをめざして飛行の練習をはじめた。カルガモが群れ遊ぶ水鳥の楽園、古徳沼。この古徳沼に寒い北国からの渡り鳥オーハクチョウが姿を見せはじめるようになって10年、最初はわずか2羽だった。沼の近くに住む後藤さんが餌づけに成功してから数が増え、今では36羽になった。

やかましくはしゃぎまわるガン、カモのチビっ子とは対照的に優雅な姿でのんびりと水に浮く白鳥は水鳥の女王だ。時にはユーモラスな格好で遊ぶ。見飽きることのない風情に見物人も後を断たない。白鳥たちの食欲は旺盛である。町役場もパンくずやふすまなど負担してくれた。また警戒心の強い白鳥を安心させようと町長さんはじめ協力してくれる。白鳥たちの北帰行が近づくと、白鳥は緊張し食欲も細くなる。後藤さんはいよいよ別れが近いことを知る。

「それは寂しいですよ。長い旅路ですから丈夫な体を作っておかないといけないから栄養のある物を与え、来年また無事に帰ってくることを祈っています」

里の人たちも皆、白鳥に別れを告げに来た。白鳥が北国へ帰る時、瓜連の里には温かい春が訪ずれる。